

令和6年度



取扱注意

授業改善推進プラン【小学校】

- ①令和6年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和6年度第2～6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 5教科(様式3)

東京都北区立豊川小学校

令和6年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	基礎の正答率は5年生以外は目標値を上回り、活用の正答率は2年生以外は目標値を上回っている。主体的な学習に取り組む態度については学年によって実態が大きく異なる。全体的に書くことに対して苦手な児童の大半が、無回答、未記入であった。
社会	基礎、活用共に正答率が目標値を下回っている。知識・技能の定着が低く、そのため問題の内容を理解できない児童が多いと考えられる。
算数	4年生までは目標値を上回っているが、5年生では活用、6年生では基礎、活用共に目標値を下回っている。特に6年生は小数・分数の計算、面積、割合など今後中学校への学習に接続していく上で系統的に必要な内容の定着度が低い。
理科	4年生の基礎を除き、基礎、活用共に目標値を下回っている。理科の用語の正しい意味を理解していないため、誤った解答を導き出している児童が多い。
外国語	活用の正答率が目標値を大きく下回っている。アルファベット書き、単語の読みなどは目標値を上回っているのに対し、英作文が目標値を20.6ポイント下回っている。

本校が児童に育成したい力
・各教科等で育成すべき資質・能力を育むための基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できる力 ・各教科等の特性に応じた見方・考え方を働かせて、自分の思いや考え方をもち、進んで表現する力

校内における学力向上推進体制
・北区基礎・基本の定着度調査や都学力調査・全国学力調査等の結果分析を基に、学力向上対策委員会で教科ごとの授業改善方法、指導の重点方針を決定する。 ・国語は、第3学年からの辞典の活用、新出漢字の指導方法の統一化、ドリル学習を通した基礎・基本の習熟、視写や短作文など書くことの指導などを繰り返し行うことで、基礎力の定着を図る。また、「豊川小学校おすすめの本」を低・中・高学年に分け決め、年間を通して多様な読書に取り組めるようにする。 ・社会は、学年別に習得させる知識を日常確認できるように地図や年表などの掲示物を工夫する。また、毎週金曜日の朝学習の時間にNIEタイムを設け、時事問題にも関心をもてるようにする。 ・算数は、東京ベーシックドリルを活用した基礎・基本の定着を図るとともに、教具を活用し体験を通した知識・技能の習得を図る。 ・理科は、既習事項を教室や理科室に常掲して、理科の用語の定着を図る。また、理科巡回指導を受けることで授業改善の工夫を校内で共有する。 ・学校図書館指導員を中心に学校図書館の整備・充実を図り、各教科で生かせるように計画する。 ・第3学年以上は「比べて読もう新聞コンクール」に全員参加する。 ・第3～第6学年までを対象とした「学力フォローアップ教室」など、授業時間外の指導を学校全体で支援し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。

本校の教育目標
○ おもいやる子 ○ かんがえる子 ○ げんきな子

学力向上にかかわる経営方針
・児童が主体的に学習に取り組む基盤を培うとともに、各教科を横断的に学ぶことができるようにする。 ・各学年に応じた話し方・聞き方やふり返りの書き方を教室内に掲示し、あらゆる教科で活用していく。 ・授業改善推進プランを効果的に活用し、基礎基本の力を習得させる。 ・情報活用能力の育成を継続し、学校図書館やNIEを活用した豊かな思考力・判断力・表現力を養う。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・全ての児童が主体的に学ぶ楽しさを実感するために、体験的な活動を多く取り入れ、問題解決的な学習を展開する授業を行う。 ・第2学年以上は自分の考えを100字程度で表す学習を実施し、習慣化させる。 ・学習のめあてを提示し、授業展開の見通しをもたせる。 ・ICT機器を授業に活用し、視覚的にも分かりやすい授業を行う。	・全学年、朝学習の火曜日に朝読書、金曜日にNIE活動を行う。 ・行事を精選し、学力フォローアップ教室など放課後の学習時間を確保する。 ・中学年では毎週月・火・金曜日の昼時間に、水曜日は朝学習時に単位時間学習を設定し、漢字の習熟を図る。	・「非認知能力が高い児童の育成～児童の思いや願いに応えられる授業作りを目指して～」を研究主題に、校内研究を推進する。 ・研究授業とその事前授業など、各学年2回の授業公開をする。 ・巡回指導や観察授業も全ての教員に参加を呼びかけ、授業改善につなげる場を多く設ける。 ・OJTを組織化し。指導者を明確に位置付ける。 ・巡回指導の内容を還元する。 ・各行事や課題に合わせたミニ研修を月に2回程度行う。	・「指導と評価の一体化」を目指した授業を行う。 ・各単元のねらいと評価規準を明確にしたきめ細かな学習指導計画を作成する。 ・1単位時間の中に児童が振り返りを行う時間を設け、評価規準に即した評価を行う。 ・評価の反省と、次時の授業の軌道修正、工夫・改善を行う。 ・「児童・保護者への学校生活アンケート」に授業に関する質問項目を設け、授業改善推進プランの評価を行う。	・地域人材や施設を活用し、学ぶ機会を多く設定する。 ・北区環境大学やお茶の水女子大学SECなど学部講師を招聘した学習を積極的に活用する。 ・ICT機器を活用し、補習としての教材配信を定期的に行うとともに、必要に応じて取組状況や課題を家庭に通知し、連携を図る。

〔様式2〕 令和6年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は、目標値と比較して2.5ポイント上回っている。活用は0.6ポイント下回っている。 ・内容別に見ると、目標値と比較して「物語を読み取る」では9.0ポイント、「説明文を読み取る」では11.9ポイント上回り、「見たことをもとに発表する」では8.5ポイント、「文章を書く」では12.5ポイント下回っている。領域「書くこと」に課題があると言える。	・「知識・技能」は、目標値より0.6ポイント下回っている。 ・「思考・判断・表現」は、目標値より1.0ポイント上回っている。 ・最も正答率が低かったのは「主体的に取り組む態度」で、目標値より11.1ポイント下回っている。	・正答率の低い問題を見ると、自分の考えが明確になるように文章を書くことや語彙が少ないことが課題であることが分かった。語彙を増やすことや文章を書く機会を多く作る必要があると考える。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は、目標値と比較して5.5ポイント上回っている。活用は、5.4ポイント上回っている。 ・内容別に見るとすべての項目で目標値を上回っていたが、最も目標値との差が小さかった「絵をつかったグラフ」では1.5ポイント上回っていたものの、類型別誤答が12.0%、無回答が15.7%になっている。領域「データの活用」に課題があると言える。	・「知識・技能」は、目標値より5.6ポイント上回っている。 ・「思考・判断・表現」は、目標値より5.1ポイント上回っている。 ・「主体的に取り組む態度」は2.7ポイント上回っている。 ・全ての観点で目標値より上回っている。	・全体ではポイントは上回っているが、データの活用に課題があること、無回答の率が高いことが分かった。日常生活で身の回りのデータ利用の場面を作り、学年が上がる度に丁寧に指導していく必要があると考える。

〔様式2〕 令和6年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は目標値と比較して6.1ポイント上回っている。活用の正答率は目標値と比較して6.2ポイント上回っている。 ・唯一目標値より下がっているものが「作り方を説明する文章を書く」で、目標値よりも4.2ポイント低くなっている。 ・類型外回答および無回答が多いのは、話の聞き取り、漢字の書き取り、説明文の読み取り、文章を書くという単元に多く見られた。	・「知識・技能」は、目標値より7.6ポイント上回っている。 ・「思考・判断・表現」は、目標値より4.2ポイント上回っている。 ・「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して4.1ポイント上回っている。 ・3観点全て目標値より上回っている。	・正答率の低い問題を見てみると、言葉の学習・文章の中の重要な語を選ぶ問題など、言葉に対して課題があることが分かった。基礎知識として語彙を増やしていくことで課題を克服できると考える。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・どの内容についても目標値を上回っている。中でも「ひょうやグラフ」は12.4ポイントも上回っており、データを活用するという点でも優れている。 ・図形の内容はあまり高い値を出しておらず、特に「はこの形」では、唯一80ポイントを下回る結果となっている。	・「知識・技能」は、目標値より7.4ポイント上回っている。 ・「思考・判断・表現」は、目標値より15.6ポイント上回っている。 ・「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して10.8ポイント上回っている。 ・3観点全て目標値より上回っている。	・「たし算・ひき算」の内容は、知識・技能の点で目標値を上回っているが、結合法則の点から題意に合うように式に括弧を付ける問題では目標値を下回っている。このことから、計算に関する基礎的な知識・技能はある程度高まっているが、それを活用することに課題があると言える。そのため、知識を活用して解く問題に触れる機会を増やしていく必要がある。

〔様式2〕

令和6年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・教科の平均正答率は、目標値に対して6.9ポイント上回っている。中でも「活用」は目標値より9.4ポイントと大きく上回っている。 ・漢字の読み書き、物語文の読み取りに関する問題は8割程度が正しく解答することができた。一方で、調べたことをもとに文章を書く問題では正答率が63パーセントとなっている。	・3観点ともに7割を超える正答率で、いずれも目標値を上回っている。 ・「主体」に関する正答率は、目標値に対して10.1ポイントと大きく上回った。一方、「知識・技能」「思考・判断・表現」と比較すると、4～7ポイント下回っている。	・平均正答率は比較的高いが、「書く」内容の問題については基礎・活用ともに正答率が低くなっている。 ・「活用」では、特に自分の考えを明確にして文章で表すことに課題が見られる。 ・「基礎」では、2段落構成で文章を書くという条件が理解できていない様子が見られる。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・教科の平均正答率は、目標値に対して6.0ポイント上回っており、「基礎」の内容は5.6ポイント、「活用」の内容は7.4ポイント、それぞれ目標値より高い数値となっている。 ・四則計算について、たし算・ひき算の問題の正答率が90.9パーセントであるのに対し、かけ算は63.0パーセントと低い値となっている。	・3観点ともに7割を超える正答率で、いずれも目標値を上回っている。 ・「思考・判断・表現」に関する正答率は、目標値に対して11.2ポイントと大きく上回った。一方、「知識・技能」「主体」と比較すると、3～4ポイント下回っている。	・目標値を下回った問題のほとんどが「基礎」に関する内容である。 ・小数の大きさ、数直線上の分数の読み取りなど、数のしくみについての理解ができていない様子が見られる。 ・二等辺三角形の作図に関する問題の正答率が目標値を下回っており、コンパスの扱い方や作図の仕方などに定着が見られない。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・教科の平均正答率は、ほぼ目標値と同じである(0.5ポイント上回っている)。「基礎」の内容は、1.3ポイント上回っているが、「活用」は目標値より1.4ポイント下回っている。 ・「物質・エネルギー」の分野は、ほぼ目標値と同じであるが、「生命・地球」の分野は、目標値を下回っており、課題が見られる。	・3観点とも、目標値とほぼ同じであるが、「主体的に取り組む態度」は、目標値より、0.6ポイント下回っており、他の2観点より低い値となっている。この結果から、他の2教科(国語・算数)と比べると、理科への苦手意識が高いと分析される。	・正答率が特に低かった分野は、「植物の育ち方」である。植物のからだのつくりや花が咲いた後に実ができることなど、植物の基本的な知識に関する事柄に課題が見られる。 ・「磁石の性質」の正答率も低かった。磁石の性質についての基礎的な知識を使い、その性質を説明するといった活用力に課題が見られる。

〔様式2〕

令和6年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は目標値と比較して2.2ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して4.2ポイント上回っている。 ・最も正答率が高かったものは「漢字を読む」で、目標値と比較して2.3ポイント下回っている。最も正答率が低かったものは「漢字を書く」だが、目標値と比較して8.3ポイント下回っている。	・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値より3.7ポイント下回っている。 ・最も正答率が低かった「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して1.0ポイント上回っている。 ・3観点中2観点が目標値より上回っている。	・最も正答率が低いのは「漢字を書く」で51.7%であった。 ・漢字を書くことでは、特に「帯(おび)」の正答率が35.0%で無回答率も25.0%となっている。漢字自体をイメージできない児童が全体の1/4おり、日常から漢字を扱うこと、学習で確実に身に付いていないなど、漢字に触れていないことに課題がある。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎力の正答率は目標値と比較して11.7ポイント下回っている。活用力の正答率は目標値と比較して3.8ポイント下回っている。 ・最も正答率が高かったものは「ごみのしやりと利用」で目標値と比較して7.7ポイント下回っている。最も正答率が低いものは「先人の働き」で、正答率は目標値と比較して16.7ポイント下回っている。	・最も正答率が高かった「思考・判断・表現」だが、目標値と比較して8.3ポイント下回っている。 ・最も正答率が低いのは「知識・技能」で、目標値と比較して13.5ポイント下回っている。 ・すべての観点項目の正答率が目標値を下回っている。	正答率41.7%の「先人の働き」は、「十二貫野用水について、資料や年表を読み取る」ことに課題があった。また、「自然災害からくらしを守る」では水害への備えについての正答率が18.3%であり、正しい知識が身に付いていないことが課題である。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は目標値と比較して1.2ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して2.1ポイント下回っている。 ・最も正答率が高かったのは「角の大きさ」で、目標値と比較して8.3ポイント上回っている。最も正答率が低いのは「変わり方調べ」で、目標値と比較して2.8ポイント下回っている。	・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して0.6ポイント下回っている。 ・最も正答率が低い「主体的に学習に取り組む態度」で、目標値と比較して5.2ポイント下回っている。 ・3つの観点項目のうち、「知識・技能」のみ、正答率が目標値を上回っている。	正答率47.2%の「変わり方調べ」、2量の関係を式に表し、一方の値からもう一方の値を求める方法を説明すること、49.4%の「面積」は、およその面積の求め方と単位の間隔を説明することであり、いずれも基本的な知識と説明する力に課題がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は目標値と比較して5.7ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して10.9ポイント下回っている。 ・最も正答率が高かったのは「1年間の植物の成長」で、目標値と比較して5.0ポイント下回っている。 ・正答率の最低値は「電気のはたらき」で目標値と比較して20.8ポイント下回っている。	・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して6.4ポイント下回っている。 ・最も正答率が低い「思考・判断・表現」は、目標値と比較して8.6ポイント下回っている。 ・すべての観点項目の正答率が目標値を下回っている。	正答率が低い「自然の中の水」「水のすがた」「電気のはたらき」は、いずれも観察や実験を通して学習した内容だが、既習の内容を基に結果を推測したり考察したりすることに課題が見られる。

〔様式2〕 令和6年度 第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析		
国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は目標値と比較して3.8ポイント上回っている。活用の正答率は目標値と比較して6.8ポイント上回っている。 ・目標値と比較して正答率が良かったのは、「話し合いの内容を聞き取る」で10.4ポイント目標値を上回っている。最も正答率が低かったものは「文章を書く」だが、目標値と比較して2.9ポイント上回っている。	・最も正答率が高かった「思考・判断・表現」は、目標値と比較して5.5ポイント上回っている。 ・最も正答率が低い「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して5.3ポイント上回っている。 ・3観点全て目標値を上回っている。	・最も正答率が低いのは「文章を書く」で55.4%であった。 ・文章を書くことでは、特に「資料から読み取った事実を書く」ことに課題がある。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は目標値と比較して5.5ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して3.4ポイント上回っている。 ・最も正答率が高かったものは「自動車をつくる工業」で、目標値と比較して1ポイント上回っている。最も正答率が低かったものは「日本の食料生産」で、目標値と比較して4.8ポイント下回っている。	・最も正答率が高かった「思考・判断・表現」は、目標値と比較して0.8ポイント下回っている。 ・最も正答率が低い「知識・技能」は、目標値と比較して4.5ポイント下回っている。 ・3つの観点項目のうち、「主体的に学習に取り組む態度」のみ、正答率が目標値を上回っている。	・最も正答率が低いのは「日本の食料生産」で51.5%であった。 ・「日本の食料生産」では、特に「農産物の生産額の割合についてグラフにまとめる」「輸入などの外国との関わりにおける課題について考える」ことに課題がある。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は目標値と比較して5.6ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して5.4ポイント下回っている。 ・最も正答率が高かったものは「多角形と円・合同」で、目標値と比較して0.1ポイント上回っている。最も正答率が低かったものは「割合」で、目標値と比較して4.2ポイント下回っている。	・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して6.2ポイント下回っている。 ・最も正答率が低い「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して9.5ポイント下回っている。 ・3観点全て目標値を下回っている。	・最も正答率が低いのは「割合」で33.3%であった。 ・「割合」では、特に「比較量と割合から基準量を求める」ことに課題がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は目標値と比較して1.2ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して8.0ポイント下回っている。 ・最も正答率が高かったものは「人のたんじょう」で、目標値と比較して7.9ポイント下回っている。最も正答率が低かったものは「植物の花のつくりと実」で、目標値と比較して6.7ポイント下回っている。同じく「物のとけ方」で、目標値と比較して10.0ポイント下回っている。	・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して2.1ポイント下回っている。 ・最も正答率が低い「思考・判断・表現」は、目標値と比較して4.5ポイント下回っている。 ・3観点全て目標値を下回っている。	・最も正答率が低いのは「植物の花のつくりと実」と「物のとけ方」で45.0%であった。 ・「植物の花のつくりと実」では、「実はめしべの一部が変化したものであることを理解している」に課題がある。 ・「物のとけ方」では、「グラフをもとに、食塩水を冷やした際の実験の結果を推測し、その理由を説明できる」に課題がある。
外 国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・基礎の正答率は目標値と比較して3.8ポイント上回っている。活用の正答率は目標値と比較して16.0ポイント下回っている。 ・最も正答率が高かったものは「単語の読み」で、目標値と比較して11.9ポイント上回っている。最も正答率が低かったものは「英作文」で、目標値と比較して20.6ポイント下回っている。	・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して4.3ポイント上回っている。 ・最も正答率が低い「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して12.8ポイント下回っている。 ・3つの観点項目のうち、「知識・技能」のみ、正答率が目標値を上回っている。	・最も正答率が低いのは「英作文」で54.4%であった。 ・「英作文」では、「例文を参考にしながら、自分のあこがれの人について、簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている」に課題がある。



〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・ひらがなの学習を終えたが、ほとんどの児童が分かるようになってきた一方で、ひらがなが読めない、書けない児童もいる。そのため、個に応じた対応が必要である。 ・話していることを最後まで集中して聞くことや、話の内容をとらえて考えることに課題が見られる。そのため、最後まで話を聞くこと、大事なことを落とさないように聞く力を養う必要がある。	・ひらがながまだ身に付いていない児童には小さい50音表を用意したり、一度教師が読んでから読ませたりなどの工夫をする。 ・話し方、聞き方のポイントを示し、繰り返し取り組んで習慣を身につけさせる。また少人数で話し合う機会を作り、相手の話に関心を持ち、尋ねたり応答したりする活動に取り組んでいく。	・読み聞かせをしたり、学習の途中でプリント学習などを行ったりして、文字の学習に対する補充や発展問題に取り組ませる。 ・国語以外の学習でも児童同士の話し合いの時間を設けたり、学級活動で学級会を行ったりして、相手にわかりやすく話す力、大切なことを落とさずに聞く力を養うようにする。また、常に相手意識をもたせて、場に応じた話し方ができるようにする。
2年	・語彙の量を増やしていくこと、文章を書くことに抵抗をなくすことが課題である。読書量を増やしたり、授業内で対話する機会を作ったりする必要がある。 ・思ったことや考えたことを文章として表現する力が弱く、文章を書くことに抵抗がある児童が多いことが課題である。	・語彙を増やすために、読書量を増やしたり、授業中に児童間で自分の考えを伝える機会をつくったりする。 ・文章を書く際には、苦手な児童に対して書きやすいように書き方の例を示したり、ワークシートを用意したりする。	・授業中に友達に自分の考えを伝える機会を作ったり、話し合ったりして、伝えたい意欲を高めるようにする。 ・授業の振り返りや思ったことを文章として書く機会を増やし、書くことに抵抗をなくすようにする。 ・読書やNIEの時間を活用し、語彙を増やせるようにする。
3年	・言葉や語彙の量を増やしていくことが課題である。学習中に分からない言葉があれば辞書を使って調べ、自分の知識へと定着させる必要がある。 ・文章を書くことには抵抗感のある児童が多い。書き始めるまでに時間がかかることが課題である。	・学習中に辞書を引かせたり、漢字の学習の際にその漢字を使った様々な言葉を読んだり書いたりすることで語彙を増やすことができるようにする。 ・文章を書く際には苦手な児童には書き方の型を提示する。振り返りなど自分の考えを書かせる時間をしっかりとる。	・分からないこと、知らないことを教員が全て説明するのではなく、児童同士で説明したり、話し合ったりしながら知識の定着を図る。 ・読書やNIEの時間を活用し、活字に触れ、語彙を増やせるようにする。
4年	・新出漢字の練習の仕方を学年で統一したり、50問テストを繰り返し取り組ませたりすることで、漢字の読み書きの定着が見られつつあるが、個人差が開きつつある様子も見られる。 ・ノートなど書くことへの抵抗感は少ないが、自分の考えを相手に伝えるよう、語彙を豊かにして書くことが難しく、書いて伝える必要感をもたせた授業の工夫が必要である。	・ノート指導の際、既習の漢字が使えているか確かめさせる。 ・都道府県の漢字は、社会科の授業と関連させて指導し、定着を目指す。 ・ノートに書いて自分の考えを伝える必要がある授業を展開するとともに、国語辞典を使いながら語彙を豊かに文章表現する習慣を身に付けさせる。	・読書タイムやNIEタイムなど、活字に触れる場面において既習・未習問わず漢字の読み方や書き方、使われ方を調べる習慣を身に付けさせる。 ・自分の考えだけでなく、相手から聞いた考えも自分の言葉でノートに書き残すよう指導し、より幅広い考え方を書き表すことができるようにする。
5年	漢字を書くこと、スピーチをすることに苦手意識が高い。日常的に漢字を使わないでノートや文章を書く児童が多く、全体の前でスピーチをしたり、自分の考えを述べることに苦手意識をもつ児童が多いことが課題である。	・漢字小テストを定期的に行う。漢字のまとめテストでは再テストを繰り返すことで定着を図る。また、国語辞典や漢字辞典を常備して確認することを意図的に指示したりして、学習を進める。 ・グループ活動や全体の場面で全員が発表する機会を作る。聞く側にも課題を持たせ、互いのスピーチ内容に意見交流できるようにする。	・宿題や個別指導を行って漢字を正しく書くことができるようにする。 ・日常的に意見を述べる場面を増やすと共に、朝の会・帰りの会の時間を使って日直にスピーチをさせたり、意見を述べさせたりする機会を多く設定する。
6年	・得た情報や自分の考えを整理して文章化をすることができていないので、書くことを重点課題とした授業の展開を増やす必要がある。 ・文章化する前段階の、「自分の考えをもつ・深める」ことに課題がある児童が多い。そのため、考えをもつ・深めるための手立てを指導に取り入れていくことが必要。	・「まとめ」や「振り返り」等で、視点を示し、書く活動を積極的に取り入れる。 ・個人で考えるだけではなく、ペアやグループで話し合う活動を取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりする時間を多く設定する。	・NIEを推進し、書くことに慣れさせていく。 ・新出漢字を使った熟語や言葉を調べる活動を取り入れ、文章に生かせるようにしていく。 ・短い文章作りを適宜行っていく。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・資料の読み取りが難しい児童が多い。 ・単元の目標から一単位時間のめあてにつなげていく学習の流れの定着が不十分である。	・資料の読み取り方について全体で指導したり、個別で指導したりして必要な資料を探し出すコツをつかませる。 ・教科書や資料からわかることや必要な情報を見つけたりする活動の時間を多くとる。 ・単元目標、学習計画を立てたのち、授業ごとにそれを確認できるようにする。	・ラインズイーライブラリなどを使用して、学習した内容の定着を図っていく。 ・まとめの活動（新聞やパンフレットなどの作成）の際には、国語や算数の知識を教科横断的に生かすことができるようにする。
4年	・都道府県などの基本的知識が不十分である。 ・資料の読み取りが浅い読み取りになっている。 ・学習への疑問は多く挙がる一方で、学んだことを自分事として考えられていないため、実生活に結びついていない。	・教科書や資料から読み取る時間を多く取るだけでなく、資料を読み取る際に視点などを教員側から伝える。 ・学んだ内容を生かせるように、「まとめ」「生かす」の部分を自分事としてまとめられるようにする。また、計画を考える際にも実生活と結びつけながら計画を立てる。	・基礎知識の習得のために、ラインズイーライブラリーなどのICT教材を使用し、定着を図る。 ・調べ学習の際には個人作業にするだけでなく、ペアやグループで調べたことを伝え合うことで多様な考えを出すことができるようにする。
5年	4教科の中で、社会の正答率が一番低い。日常の学習の中でも「嫌い・苦手」と捉えている児童が多く、身近な事柄やニュースなどを例にあげるなど、導入時の関心・意欲を高めることが必要である。 ・資料や図・表を見て、情報を得る力が弱い。正しく読み取り、自分の考えを表現する力が弱い。グラフでは、読み取り方の基礎ができていない場合が多い。	・児童が興味関心をもって取り組めるよう「学習問題」を立て、予想を基に単元計画を考え、問題解決型の授業を展開する。 ・動画や写真などICT機器を活用し、より興味関心を高めるだけでなく、資料から分かること、推測できることを全体で共有し、表現できる素地を養う。	・社会科の学習に繋がるであろう新聞記事やニュースを適宜担任から情報提供し、社会科以外の場面でも主体的に学ぶ態度を育成する。 ・NIEタイムを活用し、特定の記事について児童が自由に考え、思いを表現できる場面を設定する。
6年	・知識としてただ覚えさせるのではなく、児童が自分事として社会科の事象を捉えさせる指導の工夫が必要である。	・単元の導入で、「問い」や資料を工夫し、児童の主体的な学習になるような「学習問題づくり」をする。 ・社会科の見方・考え方を働かせ、どのような理由や事象から結果に至ったのかを整理させ、知識・理解の定着を図る。	・NIEで社会の事象に興味・関心をもたせ、その原因や解決策、これから起こることなどについて、社会科の見方・考え方を働かせながら、記事の内容を捉えられるように指導する。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・計算に関しては概ねの児童ができています。しかし問題を解く時間の差が大きい。計算に時間がかかる児童の速度を上げる必要がある。 ・文章の意味理解が不十分なことが多く、文章題を読み取り、たし算なのかひき算なのか分からないことがある。そのため正しい答えを導くことができない。	・授業の一部で計算カードやプリント問題に取り組みせ、計算の機会を与える。 ・文章題では、問われていることや分かっていることに下線を引く習慣をつける。また、文章の内容を理解できるよう図や絵を用いて可視化する。	・計算カードをペアで取り組みせたり、慣れてきたらタイムを計るなどして、楽しく活動できる場を設定する。 ・立式の根拠を伝え合う活動をしたり、友達の考えと自分の考えを比べ、何を問われているかを確認したりする学習を取り入れる。文章問題をたくさん解く練習をして、解き方に慣れるよう学習を進めていく。
2年	・計算の技能は身に付いているが、問題を読み取ったり、問題を作ることに苦手を感じている児童がいる様子が見られる。そのような児童にとっては、たしざん、ひき算の本質を理解出来ていないことがうかがえる。 ・グラフの問題では、必要な情報を読み取る力が弱い。	・問題を正しく読み取る力をつけるために、図を描いてイメージしたり、キーワードを見つけたりする授業を展開する。また国語の学習と関連付け、文章題で聞かれていることを分かりやすく理解させるようにする。 ・算数の問題を日常生活と関連付けるようにし、体験的な活動の授業を展開する。	・図示で説明が書けている児童のノートを公開したり、問題を作ったりする学習を展開する。 ・つまずきの見られる児童には、個別に指導し、基本的な知識を定着できるようにする。 ・習熟の時間や補充学習の時間では、文章問題に取り組みせ、解き方に慣れるよう学習を進めていく。
3年	・たし算・引き算・かけ算の計算の基本的な技能は身に付いているが、文章問題を正しく読み取ることに課題が見られる。 ・図形の用語が定着していない児童が多い。	・問題の把握、解決の見通し、自分や友達の考え、まとめなど一貫性をもたせた授業を展開する。考えを表現させるときは、図を用いて考えるよう助言する。 ・図形の単元では、現在習っている内容だけでなく、既習の内容も含めて繰り返し指導を行う。	・百ます計算に定期的に取り組み、わり算とかけ算の関連を確かめながら正しい計算ができるよう習熟を図る。 ・ベーシックドリルでつまずきが見られるところは、全体で指導を行い、ぐんぐんタイムで類似問題に取り組む。
4年	・習熟度によって差が見られるが、概ね既習事項をもとに課題を解決しようとしており、指導の流れに一貫性をもたせることでの積み重ねが成果に結び付いてきている。 ・四則計算について、かけ算九九の習熟学習を継続していることから定着が見られる児童がいる。 ・分度器についての知識・技能が低く、授業改善が必要である。	・問題を解決するために、既習事項の中の必要なことが何か「見通し」を立ててから考えを書くよう、授業の展開を工夫する。 ・筆算の位揃えや、わり算の筆算の手順など、算数の言葉を使って計算の手順が見えるよう、板書などの提示を工夫する。 ・動画資料などを用いて、視覚的に分度器の使い方が分かるよう指導する。	・算数習熟度別担当と連携し、かけ算・わり算が苦手な児童に対して3年生までに学習した簡単な計算の練習を行い、習熟を図る。 ・文章題で問われていることを確かめるため、線分図や数直線図を用いて考えを示させ、立式の根拠ができるよう指導の展開を工夫する。
5年	・面積や変わり方調べの単元の理解が不十分である。面積の求め方や単位量あたりの大きさなどの基礎的な知識・技能を習得するための指導が必要である。 ・四則計算の仕方が正しく身に付いていない児童が多い。かけ算九九や簡単な繰り上がりや繰り下がりがすぐにできるようにする必要がある。	・面積の求め方、単位量あたりの大きさなどの基本的な知識・技能をぐんぐんタイムを通して身に付けさせる。 ・四則計算は、日常の授業でも繰り返し練習し、理解の定着を図る。	・つまずきの見られる児童には、個別に指導し、基本的な知識や公式を再確認して定着させる。フォローアップ教室担当教員とも連携し、課題となる単元を重点的に指導できるようにする。 ・算数習熟度担当教員に依頼し、給食準備中や休み時間等にかかけ算九九の暗唱や簡単な計算について補習を行う。
6年	・自分の考えを言語化する学習を中心とした指導の工夫が必要である。 ・目標値との比較で「小数の計算」、「分数の計算」について、定着度が低い。定着を図る授業改善が必要である。	・自分の考えを文章化するだけでなく、友達の考えを代わりに発表したり説明したりする授業を取り入れていく。 ・授業の中で復習の時間を取り入れて、定着を図る。	・NIEでグラフや表の数値に着目させ、データで示された内容をどのように文章で伝えているのかを理解させる。記事の書き方を参考にし、書き方・まとめ方を定着させていく。 ・デジタルコンテンツを活用する。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・予想→計画→実験・観察・調査→結果→考察→結論という学習の流れの定着化がまだ難しい。	・単元の学習の流れを児童が意識できるよう、学習計画をたてる。 ・児童が意欲的になるような導入の工夫を行う。 ・デジタル教材を活用し、観察することが難しい部分などの理解を深める。	・基礎知識の習得のためにラインズイーライブラリなどを行う。 ・ペアで自分の予想を伝え合ったり、班で考えをまとめるなど、友達と協働しながら考えを出すことができるようにする。
4年	・観察や実験に対する意欲は高いが、その結果から考えたことを言語化させる指導の工夫が必要である。 ・他の2教科(国語・算数)に比べ、理科の基本的な知識理解が不十分である。知識が定着するための「単元のまとめ」「単元の復習」を中心とした授業改善が必要である。	・観察や実験の時に、各自が動画や写真を撮影し、観察や実験から得た結果をしっかりと捉えられるようにする。また、結果から分かったことを自分の言葉でまとめる時間を設定する。 ・動画資料や教科書の写真を活用し、視覚的に理解しやすい授業を展開する。	・テスト前後に復習の時間を多く設定する。知識の定着をはかり、発展的な問題への理解度を高める。 ・各自が撮影した観察や実験の結果をロイロノートのスライドでまとめたり、インターネットで調べ学習をしたりするなど、主体的に学ぶ態度を育む。
5年	正答率は目標値大きく下回り、児童の理科に対する学習意欲が低く、予想を立てられない児童が多い。予想は間違ってもいいものであり、予想を基に観察し、結果から分かることを考察としてまとめるための指導が必要である。	・種子の発芽や植物の成長実験でこれまでの経験から予想できること、先入観から予想を立てたことが覆る意外性を体感させる。そのことから予想を立てる楽しさ、新たな発見を基に考察やまとめを表現させることで学びに向かう力を高められるようにする。	・学習の導入で前学年までの指導事項を確認し、知識の定着が難しい場面では復習の時間を設定する。 ・適宜補習プリントを宿題等課題に出し、知識の定着を図る。
6年	・どの単位においても基本的な知識理解が不十分である。学習意欲をもたせるための指導が必要である。 ・実験や観察を行う前の段階で児童の思考を促し、言語化させる指導の工夫および改善が必要である。	・理科の見方・考え方を働かせ、既習の学習内容や生活経験から予想を立てさせる。 ・算数と関連させ、結果を数値化して客観性をもたせる。 ・実験結果や実験方法を振り返り、予想や仮説において妥当な考え方ができていたのか振り返らせる。 ・考察する時間を十分に確保し、分かったことをまとめさせる。	・NIEで理科の事象に興味・関心をもたせ、その原因や解決策、これから起こることなどについて考える時間を設定する。 ・デジタルコンテンツを活用し、既習の学習の定着を図る。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（外国語）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
6年	・音声を聞き取りやアルファベットの書き取りの正答率が高いが、「書く」の技能を向上させる指導が必要である。	・カードやイラストだけではなく、日常的にアルファベットや英単語を見る機会を多くし、英文に慣れさせる。 ・英文を書き写したり、単元の終わりのアクティビティとして、英文を使ったカードづくりを取り入れたりして、書くことに対する苦手意識を軽減できるようにする。	・NIEで英語で書かれている記事見つけを推奨する。英文に触れることや書くことに慣れさせていく。 ・補充プリントや英語ノートを活用していく。